

緑内障の新しい診療法とその評価 ホントのところは？

●企画にあたって

今回の特集は、変化が著しい緑内障診療の最近の進歩について、「話はよく聞けど実際のところはどうなの？」という疑問を解消しようという企画です。緑内障の新しい診療法が「実際にどこまで使えるのか？ 使ったほうがよいのか？」について、各分野の第一人者の先生方にご解説いただきました。データが出揃っていない以上、はっきりした結論を出すのは難しかったと思いますが、現在得られるかぎりの最新情報と先生方の実際の使用経験をもとにして、読者の皆様の実診療に参考になるような内容をご執筆いただいたことに感謝いたします。

検査法に関しては、角膜および眼球の生体力学的特性を考慮して眼圧測定を行える機器として Ocular Response Analyzer ならびに Corvis® ST について朝岡亮先生に測定理論の基本的なところからご解説いただき、また、眼圧の日内変動測定の実現に向けて臨床的に使用可能になったトリガーフィッシュシステムとアイケア Home については井上賢治先生にご解説いただきました。視野検査の新しい大きな潮流として注目を集めているヘッドマウント型視野計 imo® および新たに身体障害者認定の基準として用いられるようになったエスターマン視野測定に関して野本裕貴先生にご解説いただいています。さらに多くの種類の機器が市販され、同時にさまざまな測定手法が提唱されて読者の皆様も混乱しているであろう OCT ならびに OCTA について、赤木忠道先生に現状を率直にご評価いただき、新しく市販された隅角検査機器のゴニオスコープ GS-1 の実際の使用感に関して溝上志朗先生にレポートいただきました。

治療法に関しては、本庄 恵先生と相原 一先生に ROCK 阻害薬、EP2 作動薬、そして防腐剤フリー点眼薬、配合薬、後発品点眼薬を含めた最近の潮流を含めて解説いただき、新田耕治先生には iStent® の効果・成績についてご自身の多数の症例検討を含めて詳しくご評価いただいています。さらに、いわゆる MIGS (minimally invasive glaucoma surgery) のさまざまな術式の実際については谷戸正樹先生に、チューブシャントについては岩崎健太郎先生と稲谷 大先生に、マイクロパルス毛様体光凝固術に関して辻沢辰彦先生と庄司信行先生にご解説いただき、それぞれの利点、欠点、注意点についてご評価いただきました。ぜひ、本特集を皆様の緑内障診療の参考に役立てていただければと思います。

鈴木康之

東海大学医学部眼科学教室